

天橋立

背景

天橋立は非常に美しいことで有名で、何世紀にもわたり神聖な場所として崇められてきました。天橋立は白い砂州と青々とした松の木が青い海に並んでおり、日本の歴史のなかで賞賛されてきた風景です。この天橋立は広島県の宮島、宮城県の松島とともに、江戸時代前期の儒学者であり江戸幕府に仕えた林鷺峰（1618 年～1680 年）によって「日本三景」の 1 つに選ばれました。この評価により、天橋立は江戸時代（1603 年～1867 年）から非常に人気のある観光地となっています。しかしこの場所には少なくとも 8 世紀から、貴族や巡礼者たちが頻繁に訪れていました。絵画から詩、小説、演劇などのあらゆる芸術作品において、天橋立は不朽の存在なのです。

伝説

天橋立にまつわる伝説には、神道の始まりとなったイザナギノミコトやイザナミノミコトなどの神々に関係するさまざまな神話があります。神話によると天橋立は「天への架け橋」を意味し、愛するイザナミを訪ねるため、イザナギが天と地をつなぐはしごととして使ったとされています。そしてある日昼寝をしていると天橋立が地面に倒れ、今日のような地形になったとされています。そのためにこの場所は歴史的に神聖な場所と見なされ、訪れる人たちは寺院や神社（具体的には知恩寺、天橋立神社、成相寺、籠神社など）に敬意を表してきたのです。

地理的性質

この砂州は、近くの川の堆積物から自然に形成された 3.6 キロメートルの砂州で、宮津湾を南下し、阿蘇海をほぼ完全に囲んでいます。昔、旅行者は知恩寺から天橋立神社まで小舟に乗り、幅約 100 メートルほどの水路を渡っていました。しかし江戸時代の土砂崩れによりこの距離は大幅に短くなり、訪問者は 2 つの橋で渡れるようになりました。

天橋立は近くの川の土手が舗装されたあと、間伐を開始し、その後、湾への土砂の流入を止めました。東側を砂で補強したため、砂浜の形がギザギザになりました。この海岸線は、今後数十年でより滑らかになると考えられています。

観賞場所

天橋立は 2 つの場所から見渡すことができます。成相寺と籠神社の近くの北側にある傘松公園は、より

歴史のある観賞場所です。この傘松公園には 2 つの展望台があり、そのうちの 1 つは明治時代（1868 年～1912 年）にまでさかのぼる物です。この公園にはリフトまたはケーブルカーでアクセスすることができます。天橋立ビューランドは傘松公園の南側、駅と知恩寺の近くにあり、こちらもリフトやモノレールでアクセスできます。天橋立ビューランドには観覧車、遊び場、ゴーカートなど、たくさんのアトラクションがあります。

天橋立を見る伝統的な作法は、後ろ向きになって脚の間から見ることです。このポーズは「股のぞき」と呼ばれ、こうすると海と空が逆になり、天橋立が天に架かる橋のように見えるのです。どちらの公園にも、この「股のぞき」のために周囲よりも高くなった足場があります。また両方の公園には知恩寺に関する「智恵の輪」もあります。輪の中にうまく皿を投げ込むと、頭が良くなると言われています。

アクティビティ

天橋立では観光船、シーカヤック、レンタサイクルなど楽しむことができます。人気の海水浴場は南端に位置しています。砂州を歩く場合、片道で約 50 分ほどかかることを計算に入れてプランを立てましょう。